

編集発行責任者 吉田 和彦

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111 (代表)

URL: <http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/>E-mail: aotokouhou@jikei.ac.jp

INDEX

01. 診療科紹介(腎臓・高血圧内科)
02. 診療科紹介(泌尿器科)
03. パーキンソン病市民フォーラム開催について、医療連携フォーラム2019を開催
04. プロアコンサート、公開セミナー、核医学検査、診療科名称の変更について

診療科名称の変更について ●2020年1月より、下記の通り一部の診療科の名称を変更いたします。

総合内科 ▶

総合診療部

神経内科 ▶

脳神経内科

耳鼻咽喉科 ▶

耳鼻咽喉・頭頸部外科

診療科紹介〈腎臓・高血圧内科〉

腎臓・高血圧内科は、総合内科専門医、腎臓専門医、透析専門医、腎移植認定医などの資格を有するスタッフが常勤しており、高血圧や電解質異常に加え、病初期の検尿異常から腎不全医療にいたるまで、腎疾患診療に関する全ての領域をカバーすべく、日々の診療にあたっております。

●腎炎・ネフローゼ症候群・腎生検

当院は葛飾区で唯一の腎生検実施施設です。慈恵医大における腎生検は、本邦でも有数の歴史と実績を有しております。当科のスタッフが自ら病理診断を行い、毎週行われているカンファレンスにより治療方針を決定し、豊富な経験に基づき非典型例にも柔軟に対応しています。

●血液浄化療法・腎移植

血液透析導入の基幹病院として、長年にわたる診療実績があり、附属4病院や周辺関連透析施設などと、本邦でも最大規模の透析診療ネットワークを形成しています。相互に連携を密にすることで、高い診療レベルを維持し、透析患者の予後改善に寄与しています。透析に伴う長期合併症や併発症による入院治療も、大学附属病院ならではの豊富な診療科に支えられた柔軟な対応を行い、また、血漿交換療法や各種吸着療法等のあらゆる体外循環治療にも日常的に対応しています。また、腹膜透析療法および腹膜透析＋血液透析併用療法は、ともに本邦における最古の歴史があり、我が国の4大実施施設の一つとして、豊富な診療実績があります。内シャント手術や腹膜透析用カテーテル挿入などの手術も常時当科のスタッフが行っており、術後や長期管理中の各種トラブルにも迅速に対応しています。また、専門医による腎移植症例の管理も積極的に行っています。

●高血圧・多発性嚢胞腎・その他の腎疾患

二次性高血圧症例の診断を積極的に行い、その病態に合った適切な治療を行っています。多発性嚢胞腎を専門とする医師の外来も開設しています。尿酸代謝異常(痛風)、Fabry病などの遺伝性腎疾患の診療も行っています。とにかく風通し良く、気軽になんでも相談していただけるような存在でありたいと思っておりますので、腎臓病や高血圧治療の拠点として、ご活用いただけましたら幸いです。



〈腎臓・高血圧内科〉
丹野 有道 診療部長

診療科紹介〈泌尿器科〉

前立腺肥大症、前立腺がん、そして尿失禁など泌尿器科が扱う病気にはお年寄りがかかえるものが多く、すでにわが国が迎えている高齢化社会で泌尿器科が果たさなければならない役割は大きくなってきています。一方、尿路結石症や、膀胱炎などの尿路感染症などのありふれた病気や男性患者さんのみならず女性泌尿器分野も泌尿器科では重要です。今回、女性泌尿器分野について、少し紹介させていただきます。

●女性泌尿器科分野の診療

女性泌尿器分野の診療も開始しております。尿がもれる・尿が出しづらい・下腹部の痛み・陰部に何か下がってきた感じがするなど女性に特有の症状があるかたは、ご相談ください。腹圧性尿失禁に対するメッシュ手術を行っております。また骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨脛固定術(LSC)導入も予定しております。

◆骨盤臓器脱とは

骨盤内の臓器を支える筋肉・筋膜・靭帯などが加齢・出産・肥満などで弱くなるためにおこり、女性に多い病気です。症状は骨盤の痛みや不快感・排尿困難・排便困難などです。骨盤の中にある膀胱・子宮・直腸などの臓器が腔内に落ち込む病気で、脱出している臓器によって、膀胱瘤・子宮脱・直腸瘤があります。

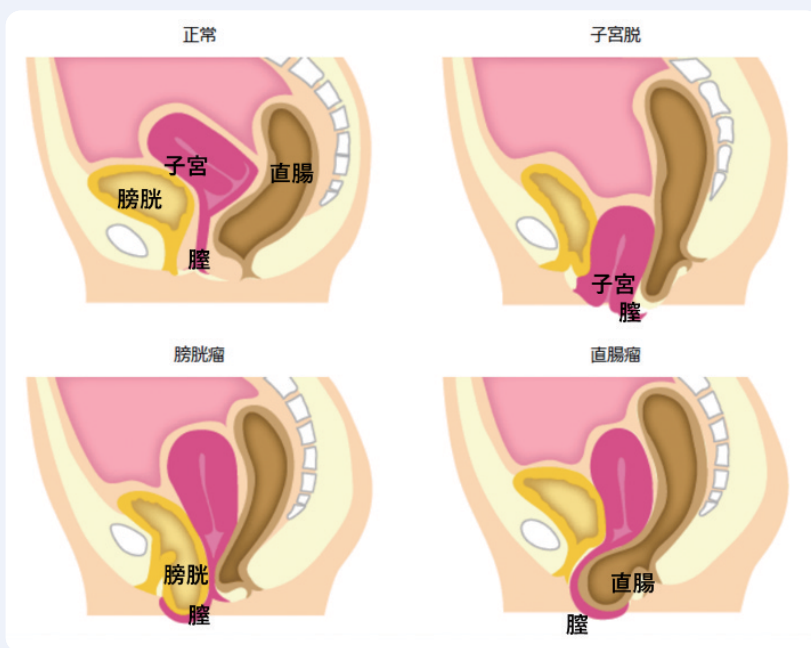


◆骨盤臓器脱の治療法

手術以外の治療法として、骨盤底筋体操や腔内リング(ペッサリー)挿入などの方法がありますが、しっかりと治すためには手術治療をおすすめしています。お困りの患者さまがいましたら、一度、泌尿器科までご相談ください。女性医師ご希望の患者さんにも曜日・時間帯などにより対応致します。

◆腹腔鏡下メッシュ固定術(LSC)とは

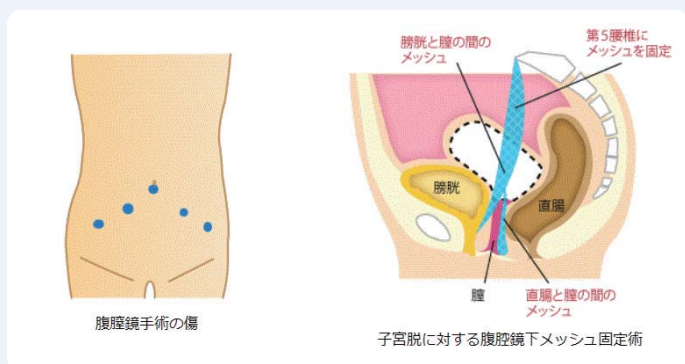
下図のようにカメラや鉗子を入れるポートを作成します。次に、子宮と両側の卵巣を摘出した後、腹腔内より膀胱と脛、直腸と脛の間にそれぞれメッシュを留置します。このメッシュを頭側に引っ張って、脊椎の前面に固定します。子宮と卵巣を摘出した方がメッシュをしっかりと引っ張ることが出来ますが、必ずしも子宮と卵巣をとらなければいけない訳ではありません。この手術は子宮脱や子宮摘出後の腔断端脱に対して通常行われます。



最後に、葛飾区とその周辺にはあいにく泌尿器科を専門とする施設が少ないため、当科では当地域の中核病院として泌尿器科疾患全般について偏りのない診療を行ない、これまで同様、地域にお住まいの方々の健康に少しでも寄与してまいりたいと考えております。



〈泌尿器科〉
山田 祐紀 診療医長



パーキンソン病市民フォーラム開催

令和1年10月26日(土)かめありリリオホールにて、パーキンソン病友の会共催、市民フォーラム「パーキンソン病の症状とその対策」を開催いたしました。

今回は3人の演者にお話をいただきました。最初の講演として、当科の浅原有揮先生から、パーキンソン病の病態、症状、治療について分かりやすくお話していただきました。2つめは、当科の宮川晋治先生に合併症として起こりやすい嚥下障害について、日々の生活の中でできる対策を丁寧に解説していただきました。最後にトレーナーの菅原利之先生から、ストレッチを中心としたリハビリを解説していただき、実演を踏まえてその効果を実感していただきました。

日本国内においてパーキンソン病の難病認定患者

はすでに10万人を超えており、今後も増加していくことが予測されます。一人でも多くの患者様がよりよい療養生活を送れるよう、これからも最新かつ最良の医療を提供できればと考えております。

●神経内科 診療部長 鈴木正彦



医療連携フォーラム2019を開催致しました

葛飾医療センターは患者さんの紹介や医療に関する講演会を通じて、地域の医療機関(診療所や病院)との連携を行っています。この医療における連携を強化する目的で、2019年11月11日(土)、当院にて「慈恵医大葛飾医療センター医療連携フォーラム2019」を開催しました。当日は地域の医療機関の方々に多数ご参加いただきました。ご参加いただきました皆さまにはこの場をお借りしまして、あらためて御礼申し上げます。

10回目となります今回の医療連携フォーラムは、
特別講演として安井 佑 先生(やまと診療所 院長)によるテーマ

「ここまでできる。難しい在宅患者への対応」

をテーマにしたご講演をしていただきました。

院内外から120名を超えるご出席いただきました。

第二部の懇親会では当センターの各診療科の診療部長からの挨拶があり、ご参加いただいた先生方と懇親を深めました。普段は電話や紹介状でしか連絡をとれない先生方と直接会って話す機会を得て、「顔の見える医療連携の推進」を図ることが出来ました。

この医療連携フォーラムは次年度以降も開催予定です。さらに充実したフォーラムになるよう企画して参りますので、今後ともよろしく願い致します。





フロアコンサートの開催について



2019年9月7日(土)に、当医療センター1階のロビーにてフロアコンサートを開催しました。今回のフロアコンサートでは本学の医師を中心としたメンバーによる弦楽四重奏をお楽しみいただきました。

曲目は、チャイコフスキー「アンダンテ・カンタービレ」やディズニー映画「アラジン」のメドレーなど計6曲で、ヴァイオリン、ビオラ、チェロの音色に心癒やされるひと時となり、会場にお越しいただいた患者さんやそのご家族にも楽しんでいただきました。その後、アンコール曲の「ふるさと」を会場の皆さんと熱唱し、閉会となりました。

今後も、皆さんに「癒し」をお届けする企画を開催していく予定です。



公開セミナーを開催しました。

2019年9月14日(土)に当医療センター5階講堂にて、第53回葛飾医療センター公開セミナーが開催されました。

●第1部:呼吸器内科 吉田 和史 診療医員

「たばこ、検診から肺がんの最新治療まで」

●第2部:看護部 がん化学療法看護認定看護師 寺嶋 友美

「「がん」かもと悩んだり、「がん」と診断されたときまずは、私達と一緒に考えましょう」



の演題でお話をいただきました。参加者は69名で参加者からの活発な質問もあり、大変有意義な時間になったと考えています。

次回第54回は2020年2月8日担当診療科が循環器内科を予定しております。

詳細が決まりましたら改めてご連絡させていただきます。

核医学検査(FAX予約)が追加されました!



- 脳血流シンチグラフィ(血流低下部位から虚血性疾患、認知症を鑑別)
- 安静心筋交感神経シンチグラフィ
(パーキンソン病やレビー小体型認知症では心筋へのRI取込み低下をきたす)
- 脳線条体シンチグラフィ(集積の程度や形状からパーキンソン症候群や認知症等を鑑別)
骨シンチグラフィに加え上記3検査が10月より予約可能となりました。

*ホームページ上の専用FAX申込用紙をご利用ください。